

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州いいやま「かまぐらの里」の維持・発展を支える事業
事業主体 (連絡先)	かまぐら祭り実行委員会 (飯山市外様地区活性化センター 電話0269-62-1029)
事業区分	その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,404,291円 (うち支援金: 1,068,000円)

事業内容

風情あるかまぐらを中心としたかまぐらの里の取り組みは、今や地域の冬の顔ともなり、さらに今後の維持・発展を図るため、受入態勢の充実に努めた。

- ① イベント広場への夜間照明の取付
- ② 作業用スタッフウェアの更新
- ③ 会場への案内用横断幕・看板の設置
- ④ かまぐらの保護用シートの作成
- ⑤ ブランド化を図る商標登録の申請



【イベント広場夜間照明】

【目標・ねらい】

- ① 会場への来場者の増加
- ② 会場での滞在時間の増加
- ③ かまぐらの製作・維持管理の負担軽減

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 38日間に及ぶかまぐらの里の取り組みにおいては、コロナ対策を徹底し、施設の安全や充実にアピールしたことで、期間中2万人の来場者を迎えることができた。

看板であるのろし鍋を食するレストランかまぐら村は、約3,700人の方に利用いただき、昨年比75%まで回復した。

② イベント広場に夜間照明を取り付けたこともあって、スノーラフティングなど提供するスノーアクティビティのメニューが充実し、来場者の滞在時間が増えた。

※自己評価【A】

【理由】

- ・週末を中心にかまぐらの営業期間中、2万人の来場者が訪れた。
- ・のろし鍋は、当初は前年比20%の利用状況見込みであったが、事業の取り組みの話題も手伝って、最終的には75%まで回復した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今季はコロナ禍において、増加傾向であったインバウンド客は見込めず、国内も首都圏他に緊急事態宣言が発出されるなど、外出や移動が控えられる状況の中であって、かまぐらの里の継続した取り組みが連日報道されたことなどから、県内を中心に一定の来場者に足を運んでもらった。来場者の滞在時間を延ばすために、さらにイベント広場を充実したものとしていきたい。

赤い作業用スタッフウェアに統一したことにより、外見とともにスタッフの心意気もそろい、のろし鍋の通信販売の取り組みは発案から1週間で態勢が整えられた。この通販やリモート対応の経験を、新たな交流人口や関係人口の増加につなげていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある